



Japan
Jenaplan
Association

vol. **37** 2020. 3月号

一般社団法人

日本イエナプラン教育協会 ニュースレター

Contents

1. リヒテルズ直子さん講演会
『みんなで「新しい学校」をつくろう～イエナプラン教育に学ぶ～』報告
2. スクールリーダーシップ研修@ロッテルダム報告
3. リーン氏インタビュー記事のお知らせ
4. 第2回日蘭イエナプランアカデミー（イエナプラン資格取得研修）
5. 全国大会のお知らせ
6. 支部報告

日本イエナプラン教育協会主催

リヒテルズ直子さん講演

『みんなで「新しい学校」をつくろう

～イエナプラン教育に学ぶ～』

日本イエナプラン教育協会代表理事

久保礼子

2020年2月15日、福岡市に於いて、本協会特別顧問であるリヒテルズ直子さんの講演会とパネルディスカッションを行いました。久しぶりのリヒテルズさんの福岡講演とあって、120人を超える多くの方が集まって下さいました。今回は先生方や行政関係の方の、参加者に占める割合が大きく、初めて福岡でイエナプランに関する学習会を開いてから10年以上の歳月を経て、いよいよイエナプランが学校現場に影響を与えつつあることを感じ得るものとなりました。

講演会のタイトル『みんなで「新しい学校」をつくろう～イエナプラン教育に学ぶ～』も、イエナプランに関心を寄せてくださる方々のニーズが、『イエナプランとは何か』のステージから、『イエナプランを学校にするには』のステージに移ってきたことを反映するものになっていたと思います。

リヒテルズさんの講演は、『イエナプランにおける「共同体としての学校」とこれからの学校の課題』をテーマに進められました。その中でまず話されたのは、大事なことは方法ではなくてビジョンだ、ということ。『イエナプランの形を学校に取り入れる』ことには、『何のために？』というビジョンがなければ意味がないということが確認されました。そして、グローバル化しIT化した現代社会における学校の役割を考えていく中で、「共同体としての学校」をめざすというイエナプランのビジョンが、その形式に現れているのだということがクローズアップされていきました。

イエナプラン教育は、単に目に見える方法の継承ではなく、子どもたちが責任ある市民として世界社会に出ていき、そこで貢献しながら新しい社会を形成していくことをめざしています。それをうながす仕掛けが、異年齢集団であり、リビングルームとしての教室であり、4つの基本活動であり、ワールドオリエンテーションです。これらの形式の後ろにあるビジョンを踏まえた教育活動が行われるときに、子どもたちは真に自立し、真にお互いの違いを尊重し、協働して世界社会のために貢献する意欲と力を得ます。

「新しい学校」をつくるとは、そうした子どもたちがやがて大人になった時に目指していくべき理想の社会の姿を、学校共同体として、学校の中に先取りすることなのです。そのためには、まず学校に関わる大人たち、すなわち、保護者と教職員とが協力して、自ら理想の共同体を学校の中に生み出していくことが求められます。

しかし、このことは、従来の画一的で序列的な学校教育の中で育ってきた私たち大人には、実はとても大きなメンタリティの転換を求めてくる厳しい課題でもあります。リヒテルズさんからは、大人たちが自らの形成に影響を与えてきたメンタリティに意識的になる必要と、学校を変革していく上での具体的なステップや、新しいメンタリティを内化していくために役立つヒントが示されました。

他方、「新しい学校」といっても、これまでの実践をすべて頭から否定するのではなく、どこがうまく行っているのか、どこに問題があるのかと自らの実践を見直すところから、小さく、一歩ずつ進めて行くべきだという示唆も、大変重要な視点でした。自らの実践を全て否定することからは何も始まりません。すでにできている良いことを出発点として、自分の立ち位置を見失わずに、また、足りない部分から目を逸らさずに、オープンな態度と謙虚な姿勢で変革に取り組むことの大切さを学びました。講演は、大人が、自分の頭で考え判断して（＝自由の行使）、チームとして協働する（＝フラットでオープンな対話ができる）新しい文化を学校組織に作ることから始まる、と締めくくられました。

後半は、『学校における自由と協働』をテーマにしたパネルディスカッションでした。パネラーに、若木常佳さん（福岡教育大学教職大学院教授）、岸野麻子さん（元高校教諭、日蘭アカデミー第2期修了生）をお迎えし、リヒテルズさんに加わっていただきました。

学校における教員の自由（裁量）について、若木さんから、若い学生や教員に古い教師像やそれに伴う文化がすりこまれており、そこから抜け出すことなく慣習的に振る舞う先生方の声や、現状に対して違和感を持ちつつもあえて自分からは行動を起こせないでいる現場の先生方の姿が紹介され、実は多くの教師たちは、自由を求めているのではないかと、逆に自由を避けてさえいるのではないかと問題提起がなされました。

岸野さんは、以前勤めていた高校で自由な学級経営が認められていたにもかかわらず、自身の信念に基づいた学級経営を通して生徒との良い関係を築けたと思った矢先に、出る杭を打たれる形で、学校から閉め出されることになった実体験を話していただきました。不当な解雇や、裁判によるその撤回、さらに、再任した後の針のむしろのような職場の体験など、自らの苦しい経験を通して、教師集団が協働していくことの難しさと、共感がない集団の中で生徒たちのために自由な意思を持ち続けていくことの苦しさを伝えていただきました。

お二人のお話は、個々の成員の自由意思を認めない中で行われる「共同」は、真の意味で「協働」とは言えず、単に同調行動を強制するだけとなる恐れがあること、また逆に、自由意思を認められてはいても、個々を尊重し合う「共同」がない集団の中では、むしろ教員として最善を尽くすことが制限され、苦しい日々をもたらす結果となることを示して下さいました。個々の成員をお互いに信頼して、相手の自由意志と自由な選択を認め合うことから真の協働が生まれるのだということを深く感じさせられました。

これらを受け、リヒテルズさんからは、「自由」について、ペーターセンの考え方に立ち戻りつつお話をいただきました。本来自由であることは、つらいし怖いもの。自分で考え判断することよりも誰かに任せていた方がずっと楽。自由をどう使うかは、しっかりと経験し学ぶ必要がある。しかし、近代以降、学校は、自由とは秩序を乱すものだと考え、黙ること、イエスと言うことを強いる傾向にあった。また、自由が人に問う「責任」の厳しさのために、人々は、むしろ自由を享受することよりも、そこから逃げ、独裁的なリーダーに追随するという大衆化の歴史もある。そのことへの反省を我々は、幾つもの戦争や差別の歴史を通して、繰り返してきたはずではなかったのか。二つの世界大戦の間に、三人の弟を失ったペーターセンにとっては、学校は、子どもを無批判な大衆として育てるべきではないとの強い信念があった。子どもは、完全に自由な存在であることを経験し、それを通して自律的な意思と、自らの自由な選択に対する責任を持つことを学び、他者の自由意志を尊重できることを身につける。その成長の場としての役割を学校に求めた。ペーターセンが述べていた＜自由＞とは、自分勝手とは似ても似つかぬもので、自由を享受するためには、唯一のルールとして、グループの他者が皆、快適に過ごせることを保証しなければならない、ということを行っている。そしてお互いの自由を保証するための秩序を意欲的に守ろうとするとともに、真の共同体がある。ペーターセンは100年も前にそう説いているのです。イエナプランの真髄です。

「新しい学校を作る」というテーマで行われた講演とパネルディスカッション。「新しい学校を作る」そのためには、まずは大人が、「自分は真に自由に思考し自由に行動しているか」と振り返りつつ、自分とは異なる価値観を持つ同僚や仲間を心に尊重して受け入れているか、その上で、今の社会にはまだ存在していない未来の理想社会を学校共同体として、子どもたちのために実現できるかが肝心だということ、そして、このように、大人たちが自ら意欲的に関わる学校共同体がある時にのみ、子どもたちは、自由を行使する力をつけ、他者の存在を尊重した行動ができるようになること、また、そうした学びは、学校という、子どもを中心に置いて大人たちが共に働く意欲を持つ場所があって初めて可能なのだ、ということが示されていったと私は思います。「新しい学校をつくる」ことの意味と意義を、深くじっくりと考える会になりました。

素晴らしい提言をくださったリヒテルズさん、若木さん、岸野さん、良い時間を共に過ごしてくださった多くの参加者の方々、また事務作業から力仕事まで細々とお仕事をしてくださったスタッフの方々、ありがとうございました！

最後にアンケートに寄せられた感想を少し紹介いたします。

- ・今子どもたちが、厳しい状況の中で学習をしていると改めて感じました。子どもたちの人格を伸ばすところに教育の原点があるというところにもう一度立ち返らなくてはならないと感じました。
- ・「共同体の誰一人でも嫌な気持ちにならない限定の中での「自由」を保障しなければならない」の言葉が身にしみました。
- ・子どもたちが自ら社会に関わりより良い社会の建設に貢献したいと思えるような社会をつくる大人の一員でありたいです。
- ・現実の学校の中で、前に進む方向性が提起されたと感じた。学校に限らず、社会全体が「自由」をなくそうとしている現状の打破に、もっと異なるアプローチも大事だと思った。
- ・教師二年目で、たくさんの不安と戦っています。若いこと、経験がないことをくやしく思いながら学校に行っています。失敗しても良い、とにかくやってみたいと改めて思うことができました。
- ・小学校に違和感を感じ、学校へ行かないと選択をした迷える小2の子の母です。深い深い学びに感謝しています。衝撃が大きすぎて、ここに簡単にまとめて書くことができないくらいです。
- ・私はまだ、イエナプランをすごく把握しているかと言われるとそうではないですが、ベクトルの向きがいつの間にか違う方を向いていたと、今までの自分の行動に対して大きな気づきがあり、だから今苦しいんだということが分かりました。来て良かったなとすごく感じました。
- ・日々一人で悶々としている僕が、この時間でワクワクにシフトしていることを実感しました。同じ志の方達と同じ空間で過ごせたことで、ぼやけていたビジョンが明確になる感覚を覚えました。共同を大切にすることで自由になれる。日常の中でもう少し深掘りしていきたいと思います。いつも有意義な場を提供いただき、ありがとうございます。
- ・これまで、自由を獲得するための、対話の仕方や、責任の取り方、ルールを作っていく方法を、学ぶ機会が少なかったなあと振り返りました。自由を真ん中に、チームでいろいろ話していきたいです。
- ・自分の考えを整理したり改めたりすることができました。スライドがあったので仕方ないと思いましたが、パネルディスカッションの時は、サークルになれると、もっと色んな方と話がしやすくなると思いました。

・「学校は変わっていく必要がある。けれど、変えなくても良いものもある。」という言葉が印象的でした。

・企業人です。学校現場だけでなく、冰山モデルの大切なコアな部分を共有し、当事者になってチームで行動する、これは企業の現場でも大切なことだと感じました。先生たちだけで頑張りすぎずにみんなで今日のような対話をしていきましょう！

・I amと、I willをしっかりと見つめて、痛みも伴うけれど、たくさん学んで、がははと笑って子どもたちと楽しむことを大切にしていきたいです。

・現在は十分に消化できていませんが、様々なinsightsとreflectionの材料を得ることができました。配付資料が見えづらいのが残念でした。画像モードで印刷されると依り鮮明になるかと思います。時間の制約があるのはわかりますが、もっと自由になりゆきにまかせても良かったのではと思いました。



パネルディスカッション



小グループでの意見交流

スクールリーダーシップ研修報告

報告：佐藤修太郎（山形県鶴岡市立上郷小学校教諭）

研修日程：2019年9月2日～6日 研修地：オランダ ロッテルダムとその近郊

講師：Rien van den Heuvel氏，リヒテルズ直子氏

研修前の自分の視野がいかに狭かったかを痛感している。

研修を終えても尚その思いは変わらない。本研修で様々な学習理論に触れたことで、教師として、そしてこれからを生きる一地球人として、まだまだ未知の学びの領域があることに改めて気づかされたからである。実際、研修前より学ぶことに貪欲になった自分が、今ここにいる。少なくともマインドセットが”Growth mindset”（成長マインドセット）になっている間は、学ぶことをやめないはず。そう感じられるようになったのも研修の成果だと思う。

本研修でリーン先生から最終日に学んだのは、「リーダーも成長途上」「弱さを見せることが強さ」「ありのままであることが大切」ということだった。今まで「強さこそがリーダーの証」と見る向きも少なくなかった自分にとって、目から鱗が落ちた瞬間だった。

本音を晒すと、当初「スクールリーダーシップを学ぶ」ということの意味すらよく理解していなかった自分にとって、本研修での最大の目的は、イエナプラン教育の学校現場をこの目で見ることであった。しかし、本研修を通して、イエナプラン・スクールで行われている様々な営みが、揺るがぬイエナプランのビジョンに因るものであると理解し、様々な学習理論を学ぶ中で自身の現場に生かせるものが単なるイエナプラン教育の仕組みやアクティビティだけではなく、もっと普遍的で俯瞰的なものの考え方だと気づいたとき、教育観だけでなく、一気に人生観や世界観すら変わってしまった。講師であるリーン先生や直子先生と直接やりとりをし、現地オランダの文化に触れながら受講したことで納得できたことも多く、何にも換えがたい貴重な経験となった。本報告ではその経験の一端を紹介したい。



揺らぐ「ビジョン」を持つ

まず、研修を通してより意識的に考えるようになったことの一つに「ビジョンの共有」がある。「ビジョン」は、言葉としては自分も日常的に使っていたが、どのような意味で使われているかを深く考えることはなかった。しかし、リーン先生が、ピーター・センゲの『学習する組織』から、選択の序列をとってもわかりやすく教えてくださり、「ビジョン」はその序列の核となるものだということを知った。クジャクの羽根を使って、「ビジョン」や「ミッション」が明確で常に意識がそこに向いている組織は揺らがないということも体験的に教えていただいた。

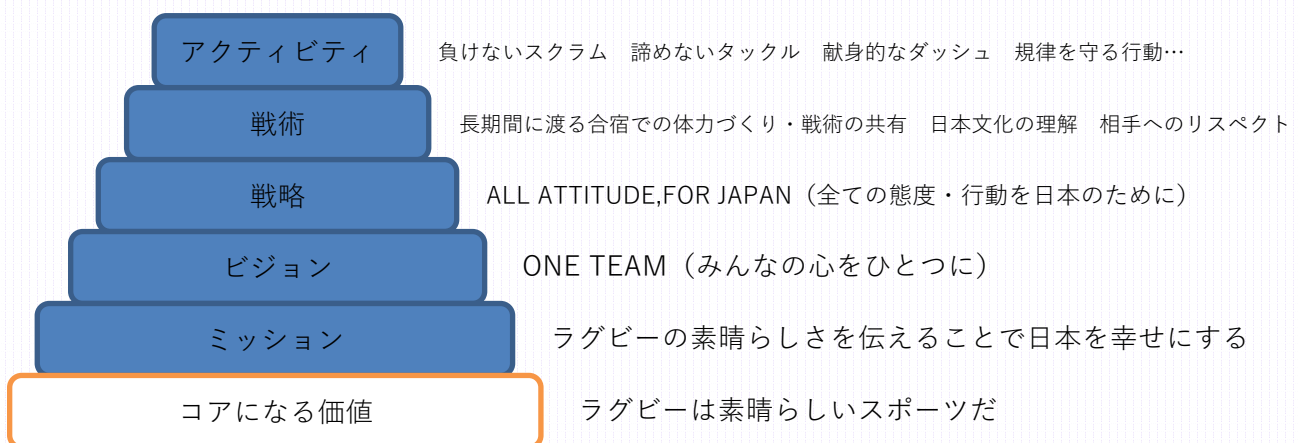


それ以来、ビジョンの共有がなされているか、勤務校ではどうか、自分の担任する学級ではどうか、うまくいかないときはどこでつまづいているのかを意識的に考えるようになった。自分のビジョンとは何かを考える実習もあり、自身の教育観を見つめ直すいい機会ともなった。

また、帰国して間もなく、優れたビジョン（今も自分はそう思い込んでいる）に思わず唸ってしまったこともあった。それは、ラグビーワールドカップで日本代表が快進撃を続け、日本中が熱狂の渦に包まれたときのこと。流行語大賞にも選ばれた「ONE TEAM」。この合言葉をテレビで目にしたとき、「ONE TEAM」の文字の下に小さく添えられていた言葉に目が留まった。

「ALL ATTITUDE, FOR JAPAN」そう書かれていた。そのとき、ふと研修で学んだことが思い出された。

「ONE TEAM」は「ビジョン」ではないか。だとすればこれは「戦略」ではないか。そう思い始めると、研修で学んだ序列図にどうしても日本代表の活動を整理してみたくなった。以下右側は私の勝手な憶測で作られた序列である。



勉強不足で未だにこの捉えが合っているかどうかはわからないが、もし合っているとすれば、揺らがぬビジョンが、ミッションを達成させた好例ではないかと思う。

オランダでは、先生方がお互いにビジョンを書いて紹介し合うという。保護者にもビジョンを提示し、その理由を言えることで信頼関係が築けるとも聞いた。新年度の自分のビジョンを明確にし、勤務校のビジョンをしっかりと見据え、ぶれない実践を積み上げていこうと決意を確かにする出来事だった。

求められる「集団としての知性」と社会性

研修中に視聴したシステム思考を学ぶ映像の中でピーター・センゲが発言していた「我々はあまりに個別的知性にこだわり過ぎている」「学校はあまりに『できる子』『できない子』という見方をし過ぎる」という言葉が忘れられない。誰が1番頭がよいかはどうでもよい。現代の課題を解決していくために求められているのは「集団としての知性」なのだと。リーン先生にも噛み砕いて説明していただき、そもそも教育の目的は、一地球人として今日的な課題に向かって解決しようとする子どもの育成なのだと再確認した。

新年度から本格的に施行される新指導要領でも「協働」は一つのキーワードとなっているが、その目的について偏った見方をしていなかっただろうか。今まさに世界中が新型コロナウイルスの脅威にさらされ、地球規模での知性が求められている状況を目の当たりにするにつれ、「集団としての知性」を働かせる環境を子どもの頃から整備する必要性をひしひしと感じる。

研修中は、この『学習する組織』について学びを深めてからイエナプラン・スクールを見学したことで、異学年グループやサークル対話を通して学ぶ大きな意味を理解することができた。「できる」「できない」で線引きされ続ける環境では育むことが難しい「集団としての知性」を体感的に学ぶことができるのがイエナプラン教育なのだと感じた。利害を計算して国家のために学ぶのではなく、未来の理想の共生社会のために学ぶというイエナプラン教育の理念は、今後益々重要になってくるに違いない。学校はそのような共生社会の縮図。子どもから、保護者、クラス、学校、地域社会、世界と同心円状に広がる生と学びの共同体の中でも、子ども達が最初に社会性を学ぶのがクラスルーム。その運営を任されている自分の責任は非常に重いと背筋が伸びる思いがした。

研修中、イエナプラン・スクールを訪問した際、スナックを食べる時間に他の子が椅子に座る中、一人先生のひざの上に乗ってケーキを食べている女の子がいた。周りの子は何を言うわけでもない。聞けばその子は今日が誕生日。みんなに祝ってもらっているのだという。しかし、みんなが食べているケーキはその女の子のお母さんが作ってくれたとのことだった。誕生日の子（家族も）が周りの子に感謝の気持ちを表す。周りはその子を囲んで祝う。そんなあたたかい光景からも、社会の縮図（リビングルーム）としてのクラスルームの役割を垣間見た気がした。



仲間と共にオランダで学べた経験の大きさ

今回の研修で得た財産は計り知れないが、紛れもなくその一つに研修を共にした仲間との出逢いがあった。本研修には、日本全国から（オランダ・イギリスからも）小中高大、民間や社会教育それぞれの現場で子ども達と向き合っている教育関係者に加え、会社員、イラストレーター等幅広い分野で働く方々が参加していた。年齢も性別もばらばら。価値観や経験も全く異なるメンバーと5日間も一緒に学べたことで、新しい発見や気づきが講義の合間のリフレクションを通して次々と生まれた。多様な社会の中でこそ新しい価値が生まれ、深い学びが得られるということを身をもって経験することができたのである。

一緒に昼食をとったり、毎日研修後に集まって（美味しいオランダビールを飲みながら）自主リフレクション会を開いたりしながら、それぞれの研修への願いや帰国後の実践に向けた熱い思いを交流する中で感じた「同じ志をもつ仲間がいる」という心強さは、今も自分の学び続けたいという思いを後押ししている。



「まずやってみる」というスタンスから

帰国して間もなく、担任している5年生の子ども達と試してみたことはサークル対話だった。教室後方に丸椅子を並べ、少し狭くはなるがサークルを作った。

「形式だけ真似をしてもビジョンを知らなければ本物の学びにはならない」ということを直子先生から聞いていた。だからこそサークルになる理由や仲間を思いやる中で大切にすべきルールについては慎重に話し合った。

話し合う姿はまだ少しぎこちないが、サークルで話すことを喜ぶ子ども達の姿がある。

サークル対話ができずに短縮の帰りの会になった日は、きまって残念がる子どもの姿がある。

職員会議で承認を得て、新年度からは全ての学級でサークル対話の時間を設けることが決まった。縦割り清掃の反省会も、班長と班員が正対して班長だけが決まりきったセリフを言って終わっていた今までの形を見直し、サークルで行おうということになった。子ども達一人ひとりが素直に思いを語れる場をこれからも増やしていきたい。

また、子ども達の年度初めの個人のめあての立て方にも再考の余地ありと感じている。全員で話し合って掲げる学級目標（ビジョン）を共有した上で、どのレベルのめあてを立てさせるのか、どのようにフィードバックし、成長させていくのかを考えていきたい。

研修の学びを広げるという点では、主にイエナプラン教育についての校内研修を12月に行った。オランダ土産のお菓子をつまみながら、サークルになって和気藹々と話し合った。新年度からのサークル対話の導入の気運は、この研修でのやりとりから高まっていった。新しい取り組みにも積極的にチャレンジしてみようという風土が勤務校にあることが、我ながら誇らしく思う。

その後、多様な立場からの化学反応を期待して、校外でもこじんまりとオランダ研修報告会を開いた。息子の通う幼稚園の園長先生、イエナプランに興味を持っていた高等専門学校の先生、行政職経験をもつ勉強熱心な先輩教員と4人で様々なことを語り合った。それぞれの立場で地元の教育の質を上げていくためにできることを話し合う中で、沢山の気づきが生まれた。



地元鶴岡にある庄内藩校致道館では、江戸時代の昔から自主性を重んじる教育を行っていた。幕府が唯一認めた朱子学中心の教育に各藩が倣う中、その流れに逆らい徂徠学を中核に据えたのだ。その結果庄内藩は幕末最強^{※1}と言われたという。「天性重視個性伸長」、「自学自習」、「会業（小集団討議）の重視」が教育の特色。時代の要請の違いからビジョンこそ違うが、どこかイエナプランにも通じる教育活動が行われていたことに今更ながら驚く。さらに、大勢に流されず真正な教育を求め続ける姿も、イエナプランに通じて

いる。200年前の郷土の教育に誇りをもつきっかけまで与えてくれた本研修には、運命的なものを感じている。自分一人では微力だが、これからも学び続け、仲間と共に世界に貢献できる子ども達の育成に力を注いでいきたい。

※1 参考URL: 「幕末最強・庄内藩士の強さを支えた『驚きの教育システム』」

<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/55463>



リーン氏インタビュー記事のお知らせ

スクールリーダーシップ研修の講師でもあるリーン氏の退職を記念して、オランダのイエナプラン教育協会が会報誌”MensenKinderen”でインタビュー特集を組みました。その記事「ここでは、誰もが『みんなで共に成長する』という文化に招き入れられるのだ」をリヒテルズ直子さんが翻訳してくださっています。会員専用ライブラリーにありますので、是非、お読みください。

第2回日蘭イエナプランアカデミー (イエナプラン資格取得研修)

3ヶ月研修報告

岸野 麻子

私が持っていたクラスは26人中十数名が不登校というまるで学級閉鎖になるのではないかとというクラスでした。2年間かかって不登校ゼロになった背景に何があったのか。自分のやってきた教育を理論づけるものはないか。そんなときにイエナプランを知り夏の2週間研修に参加。それではらず、3ヶ月間のこの研修を終え腑に落ちました。

参加した私たちはお互いのユニークを尊重し、違いから多くのことを学びました。イエナプランを体現する中で、主体性をもち取り組むことでだんだんと良いグループに成長しました。よく遊びよく学び、対話をし、催す。これらを繰り返しながら家族のような空間で安心して学ぶ。

実践現場でやらなければならないことはグループづくりです。安心して失敗できる空間づくり。好奇心旺盛、学ぶことに熱心で興味関心が強い、共感的、他の人の気持ちがわかる、グループのリズムを感じられる、コミュニケーションが上手、子どもを信じている、誇りを持っている・・・等々よく観察し、そして、あなたの強みにフォーカスを。不登校のクラスでまさに実践してきたことです。

最後に、私たちのグループを成長させるためにご尽力をいただいたリヒテルズ直子さん、ヒュバート氏、フレイク氏に感謝をするとともに、これからも同じように目の前の実践現場でグループを成長させ自分の力を教員間で振り返りながら学習をつづけていきます。オランダだからできるのではなく日本で実践していきたい。主体性のある子ども、主体性のある社会の実現に向けて。

原 直希

私の3ヶ月のオランダの生活は、夢のような時間だった。学びたかったイエナプラン教育を学び、オランダの方の優しさに触れ、リズムカルで有意義な時間を過ごすことができました。その中でも、特に私が嬉しかったことはオランダで素敵な個性溢れる人たちと出会えたことです。研修施設では、日中は一緒に理論を学び、授業が終われば、庭で遊んだり、散歩をしたりそれぞれの時間を過ごしました。夕方になると、交代しながら料理をしました。特にムール貝の料理は格別においしかったです。思い出の味です。食後は、長時間ボードゲームをしたり、深夜まで語り明かしたりしました。本当に濃い時間でした。そして、週末の催しは、メンバーの意外な一面が見れたり、たくさん笑ったりと最高でした。慣れない課題があったり、悩んだりすることも沢山ありましたが、その都度サークルになり話し合いました。言わなければ伝わらない、効率が悪くなる。初めは意見を言うことに抵抗を感じる場面もありました。しかし、気がつけば何でも気兼ねなく話せる仲になっていました。教育に関しては似たような想いを持って、そして何でも話すことができる、そんな素敵な仲間に出会えたことが何より嬉しかったです。これから、私の課題はこの経験を夢で終わらせるのではなく、少しずつ少しずつですが実践していくことだと思っています。

3ヶ月研修報告

松林 紗世

“みんなちがって みんないい”

教員生活の中で金子みすゞさんのこの言葉を幾度となく使ってきました。“使ってきた”という表現にしたのは、オランダに行くまで私自身が子どもたち一人ひとりの違いやその違いがもたらす豊かさをわからずに子どもの前で言っていたとを感じるからです。

オランダではあらゆる場面で子どもたちの違いが大切にされていました。違いを更に育てていました。違いを認め、そこから学び合っていました。子どもだけでなく大人も同じで、私自身もこの3か月間、違いを大切にしてもらい、育ててもらい、認めてもらうことで多くの学びがありました。人は本当に“みんなちがって みんないい”のだということを実感として得ることができました。

違いを認め、学び合うには、基盤に人間関係が深く関わってきます。研修では生活や課題をメンバーと一緒にしていく中で、好み、得意不得意、物事の捉え方、取り組み方・・・お互いのあらゆる違いが日本にいる時よりも顕著に現れました。初めの頃は、人との違いに戸惑ったり、羨んだり、自信をなくしたりすることもありましたが、3か月間私たちはとにかくいっぱい話して、いっぱい遊んで、いっぱい学んで、いっぱい笑うことで、それぞれが自分らしくいられる人間関係に変化していきました。すると互いを尊重し合い、違いを純粋に楽しめるようになっていました。そうすると、“一人でやるより誰かと協働する方が楽しい”というだけでなく、自分たちの創造性も高まりました。まさしくイエナプランの4つの基本活動（対話、遊び、仕事、催し）の体験でした。3か月丸ごとそのものがイエナプランでした。

“No action, Never change.”

（行動しないと何も変わらない：意識）

ホームステイ先で出会った素敵なオランダ人イエナプラン教員が言っていた言葉です。私はオランダに来るまでは自分や自分が置かれている状況に対して「どうせ変えられない」という思いで悶々としていたことが度々ありました。ですが思い切ってオランダに来たことで、「変わることができる」という希望や「変えていくんだ」という決意を持つことができました。それは自分にとって大きな変化であり、思い切ってオランダに行くという行動を起こしたことがもたらしたものでした。

私はこれからも行動し、変わり続けたいと思います。そして、違いを認め合い、みんなと一緒に生きていくことがもっと当たり前の社会になるようにアクションを起こしていきたいと思っています。

オランダでのすべての出会いとつながりに感謝して。



第5回全国大会のお知らせ



日時：2020年8月22日（土）
10時～16時（予定）

場所：フォレスト仙台

テーマ：「催し」

宮城支部が中心となって学びながら計画中です。
是非ご参加ください。



支部報告 (2019年9月～2020年2月)

【愛知（名古屋）支部】

「20の原則」とその解題をじっくり読み、そして対話する。このような内容のイベントを名古屋支部単独で企画し活動することもあります。イエナプラン教育に興味関心がある方々や他の協会支部とコラボレーションして学習会を開催することも増えています。

今後も「20の原則」を体現できるような活動を続けていきたいと考えています。

《活動日》

- ・ 9月 8日（日）

これから必要な“日本の教育”について考える！～対話からはじまる教育とは！？～（名古屋市）

- ・ 9月29日（日）

イエナプラン教育のコンセプト「20の原則」を通して教育・子育てを考える

@ぎふマールタウン子育てカフェ（岐阜市）

- ・ 11月30日（土）

イエナプランってどんな教育？お話会（名古屋市）

- ・ 2月15日（土）

イエナプラン教育「20の原則」を読む（名古屋市）



《今後の日程》

- ・ 4月11日（土）イエナプラン教育って何？？学校や家庭で今からできることを考える（名古屋市）

- ・ 7月 5日（日）イエナプラン教育のコンセプト「20の原則」を通して教育・子育てを考える

@ぎふマールタウン子育てカフェ（岐阜市）

（報告：若杉逸平）

【愛知（豊田）支部】 NEW!

教育関係の仕事に携わる人のみならず、子達の尊厳を大切にしたい関わりあいに関心がある方、多様な個性を尊重した学び場に関心ある方、イエナプラン的な自身の在り方に関心がある方に参加いただきたいと思います。オランダで花開いたイエナプランですが、豊田ではドイツ時代にも着目して学びあう予定です。

活動日：

【First Meeting Jenaplan Toyota（第1回ミーティング）】

2020年1月25日（土）13:30～15:30

* 日本イエナプラン教育協会 豊田支部 立ち上げイベント

今後の日程、告知：

【2nd Meeting Jenaplan Toyota（第2回ミーティング）】

日時：2020年3月27日（金）18:45～20:45

場所：ととの樹 愛知県豊田市梅坪町6丁目9-10

第2回 代表世話人：安藤さち子（くららファシリテーション事務所）

（報告：安藤順）

【埼玉支部】

活動報告

- ・ 10月27日（日）9時半～12時：第12回勉強会
モーニングカフェ・イエナ（近況報告会）
埼玉支部、久しぶりに始動です！
- ・ 11月30日（土）20時～21時半：第13回勉強会（オンライン）
- ・ 12月21日（土）20時～21時半：第14回勉強会（オンライン）
- ・ 1月12日（日）9時半～12時：第15回勉強会
モーニングカフェ・イエナ
- ・ 2月29日（土）20時～21時半：第16回勉強会（オンライン）

活動予定

- ・ 3月29日（日）20時～21時半：第17回勉強会開催予定（オンライン）

（報告：田村悠子）

【長野（中信）支部】

長野県の中信地区（松本市、安曇野市など）で勉強会を開いています。日本の公教育を変えていくことを目的に、イエナプラン教育を学び、たくさんの方に知ってもらおう活動をしています。池田町のNEXT IKEDUさんなど他団体のイベントへの協力もしています。

- ・ 9月15日 イエナプラン教育勉強会（松本市中央公民館Mウィング）
- ・ 9月21日 イエナカフェ@池田町第1弾（池田町交流センター かえで）
- ・ 11月24日 イエナプラン教育勉強会（松本市四賀瀧澤宅）
- ・ 12月 7日 イエナカフェ@池田町第2弾（池田町交流センター かえで）
- ・ 1月 4日 イエナプラン教育勉強会（松本市四賀瀧澤家宅）
- ・ 1月13日 長野県次世代教育サミットin松本2020（信州メディアガーデン）
参加者200人にイエナプラン教育についてプレゼン
- ・ 2月 9日 イエナカフェ@池田町第3弾（池田町交流センター かえで）

今後の予定

- ・ 3月25日 『SDG s から教育を考える』（塩尻市北部交流センターえんてらす）で
イエナプラン教育の紹介を依頼されています。

（報告：瀧澤輝佳）

【長野（南信）支部】

不定期で勉強会を開いています。

2020年3月より、伊那の代表が幕内から手嶋に交代しました。

伊那

- ・ 11月13日（月祝）DVDを見て話す会 伊那市西春近
- ・ 2月23日（日）DVDを見て話す会 馬籠集会所

木曽

- ・ 2月14日（金）第4回「学び」の勉強会（木曽町地域交流センター）
木曽子育て町づくりの会主催 イエナプランDVDを見て対話

（報告：幕内那菜）

【福岡支部】

活動日：

- ・ 10月27日 「学びを考える」
- ・ 12月14日 「Most Likely To Succeed」上映会と対話会
- ・ 2月15日 リヒテルズ直子さん講演会&パネルディスカッション

10月は、「学びを考える」をテーマに、フリースクール『産の森学舎』の大松さんご夫妻をお招きしました。学びの本質を追求しながら、地道に実践を重ねてこられたお二人のお話しはとても内容の濃いもので、とても充実した会となりました。12月は、「未来の学び福岡」さんとの共催で、二度目となる上映会を行いました。2月は、協会主催の講演会に全面協力。支部メンバーの協力で、盛況のうちに無事イベントを終えることができました。

3月には、2019年夏にオランダに研修に行った二人の若い先生に研修の報告をお願いしていました。しかし、コロナウィルスの影響で、中止やむを得ずの状況下です。残念。

（報告：久保礼子）

【オランダ支部】

9月 会報誌 De kring vol.6 発行

支部としてのイベントはありませんでしたが、運営に関わってくれる新メンバーを1人迎えました！さっそく次号会報誌に寄稿してくれているので、近日公開予定のDe kring vol.7をお楽しみに。イベントもまた企画していく予定です。

活動報告とは異なりますが、この場をお借りして共有したいことがあります。オランダの学校視察、移住、支部主催ではないイベント等のお問い合わせをいただくことがあります。これらにはオランダ支部は対応していないことを、今後会報誌等を通して表明していきます。協会会員のみなさまにもご承知おきいただきたいです。よろしくお願いいたします。

（報告：山地芽衣）

【東京（多摩）支部】 NEW!

東京多摩市を中心にイエナプランに興味がある方と勉強ができる場を作りたく、設立いたしました。

活動日：

第一回学習会を1月19日に多摩市立豊ヶ丘小学校にて実施しました。参加者23名と想定を超える参加者にお越しいただくことができました。内容は、イエナプラン協会理事の川崎知子さんによる基礎講座で、オランダの教育事情や社会的背景、文化、そしてイエナプランスクールの実際について学びました。

今後の活動予定：

5月頃に第2回学習会を予定しています。

（報告：新堀貴子）

【神戸（明石）支部】 NEW!

兵庫県明石市のウィズ明石を拠点にして、勉強会を開催していきます。保護者として一市民として教員としてみんなでつながって、これからの時代を生きていく子供たちにできる事は何か、みんなで考えていきましょう！フェイスブックにグループもありますので、ぜひご参加下さい。

活動日：

2月29日（土）第1回学習会

オンラインで、川崎知子さんからイエナプランやオランダについて教えていただきました。

活動予定：

5月9日（土）10時～

第2回学習会（ウィズ明石701）で兵庫教育大学の溝辺先生をお招きする予定です。

同時にオンラインもできたらと考えています。

（報告：末永静）



各支部のご案内

・ 北海道（帯広）支部	… hokkaido-obh@japanjenaplan.org
・ 宮城 支部	… miyagi@japanjenaplan.org
・ 埼玉 支部	… saitama@japanjenaplan.org
・ 千葉（浦安）支部	… chiba@japanjenaplan.org
・ 東京（世田谷）支部	… info@japanjenaplan.org
・ 東京（多摩）支部	… tama@japanjenaplan.org
・ 神奈川（湘南）支部	… syounan@japanjenaplan.org
・ 長野（東信）支部	… toshin@japanjenaplan.org
・ 長野（中信）支部	… matsumoto@japanjenaplan.org
・ 長野（南信）支部	… nanshin@japanjenaplan.org
・ 長野（アルプス）支部	… alps@japanjenaplan.org
・ 愛知（名古屋）支部	… nagoya@japanjenaplan.org
・ 愛知（豊田）支部	… toyota@japanjenaplan.org
・ 関西（大阪）支部	… kansai@japanjenaplan.org
・ 兵庫（神戸・明石）支部	… koubekashi@japanjenaplan.org
・ 福岡 支部	… fukuoka@japanjenaplan.org
・ オランダ支部	… oranda@japanjenaplan.org

